

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立恵那高等学校 事業実施報告書②

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I 、 V 】
2 実施対象者	全校生徒 674 名 (第1学年211名、第2学年230名、第3学年233名)
3 展開の形式	学校における活動 ○行事名 (オリンピアンによる講演会・部活動技術指導)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピアンの講演会を通じて、アスリートの生き方やスポーツに関する様々なキャリアを学ぶとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下東京2020大会）開催を契機に、生涯を通じたスポーツへの主体的・自発的な参画（「学ぶ（知る）」「観る」「する（体験）」「支える」と、その発展に寄与する人材の育成を図る。 ・国際舞台で活躍している卒業生の指導を受けることで、競技力の向上を図る。
5 取組内容	<p>①講演会…「恵那から世界へ～トップスポーツを経験して思うこと～」</p> <p>○講師 岩畔道德先生（明治安田生命ボート部GM兼監督） 本校卒業生 バルセロナ五輪・アトランタ五輪ボート出場</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>*本校卒業生のオリンピアンを招聘し、講演していただいた。講師の経歴（主な競技歴・指導歴）の紹介から始まり、オリンピックに出場した時のエピソードや選手時代に練習や試合時に意識しておけば良かったと思うこと、チームが強くなるための考え方についてお話しいただいた。オリンピック・パラリンピックへの関わり方やスポーツの価値や役割に触れ、スポーツが人々に与える力について力説された。</p>

②部活動技術指導

○「オリンピックによるボート部員への技術指導」



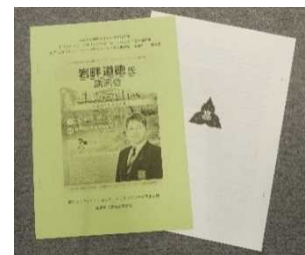
*講演会后、部活動終了時刻まで、母校の後輩のために熱心にご指導いただいた。技術指導は、「動きを理解して」「体で感じて」「表現する」プロセスを取った。初めに会議室でセルフマネジメントとオールの握り方等の技術的な指導をしていただいた後、室内練習場に会場を移し、エルゴメーターを使用して生徒のローイング技術を細かい部分までチェックしていただいた。

③振り返り学習（保健体育授業）

○報告書による振り返り

*報告書を作成、全校生徒に配付し、オリンピック・パラリンピック教育の概要を再確認した。

*報告書の内容…「講師コメント、アンケート結果、生徒感想、フォトギャラリー、新聞掲載記事等」




6 主な成果

- ・国際舞台を経験している卒業生からのエールが生徒たちの心に響いた。自分も目標や夢に向かって努力しようというやる気につながった。
 - ・スポーツの価値や素晴らしさを発見したり、再確認することができ、スポーツとの関わり方を自分なりに考えるきっかけとなった。
 - ・トップアスリートの生の声を聞いて、トップアスリートから見たスポーツの意義を知ることができた。
 - ・国際舞台を経験している人だからこそ、スポーツは国境を越えて絆を深める素晴らしいものであるということを実体験を基に教えていただいた。
 - ・チラシを全校生徒に配付したことで、家庭の中でオリンピックの話題として取り上げるきっかけになった。
 - ・部活動において、社会人トップチームを率いるオリンピックに技術指導をしていただくことで、トップクラスの技能を習得することができ、生徒は感激していた。その後も、教えていただいた技能を継続的に実践、競技力向上につなげている。
- *今回の講演会の生徒の感想は、後述記載。

7実践において工夫した点（事業の特色）

- ・本校は、ボート部OBから2名のオリンピックを輩出していること。恵那市が東京2020大会ボート・カヌー事前キャンプ地の誘致活動に取り組んでいること。本校に強豪のボート部があること。この3点のつながりから、本校にとって身近なオリンピックを講師に迎えることとした。交流のある顧問から熱烈なアプローチの末、講師依頼を快諾していただいた。

	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の技術指導において、水上練習は短時間の指導では効率が低くなることから、限られた時間で一斉指導のしやすい、会議室と室内練習場で練習する流れを取った。 講演会のチラシを作成し、教室掲示だけでなく、全校生徒にも配付した。東京2020大会を家庭からも発信してほしいという願いから、生徒には自宅に持ち帰り、家庭で講演会やオリンピック・パラリンピックの話題に触れるよう伝えた。 事後学習として、講演会の報告書を作成して全校生徒に配付し、生徒に「振り返り」をさせることによって学びの定着を図るよう工夫した。 
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演時間に限りがあるため、質疑応答等の生徒と講師の交流する時間を十分に取ることができなかった。 生徒がボート競技に対する理解不足のため、予めボートの展示や国際レースの映像を流す等しておく、講師の話がより浸透しやすかったのではないかと。 事後指導として報告書を使用して振り返りを行ったが、報告書の作成に時間を要し、事後指導を行う時期が予定より遅くなってしまった。オリンピック・パラリンピック教育の定着を図るには、講演会后できる限り早く振り返り学習を行う必要があった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> オリンピックだけでなく、パラリンピアンや障害者スポーツに関わる方の講演や障害者スポーツの体験・交流を通して、障害者スポーツの理解やその学びをさらに深めていきたい。 本校の卒業生には国際舞台で活躍している人や企業チームの指導者として活躍している人も多い。本校生徒との交流の機会を定期的に設け、先輩から後輩にオリンピック・パラリンピックのレガシーを引き継ぐ機会としたい。